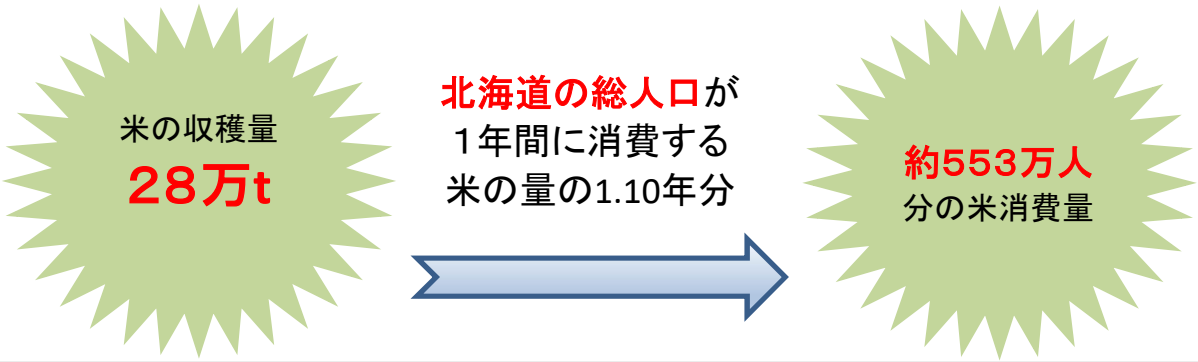
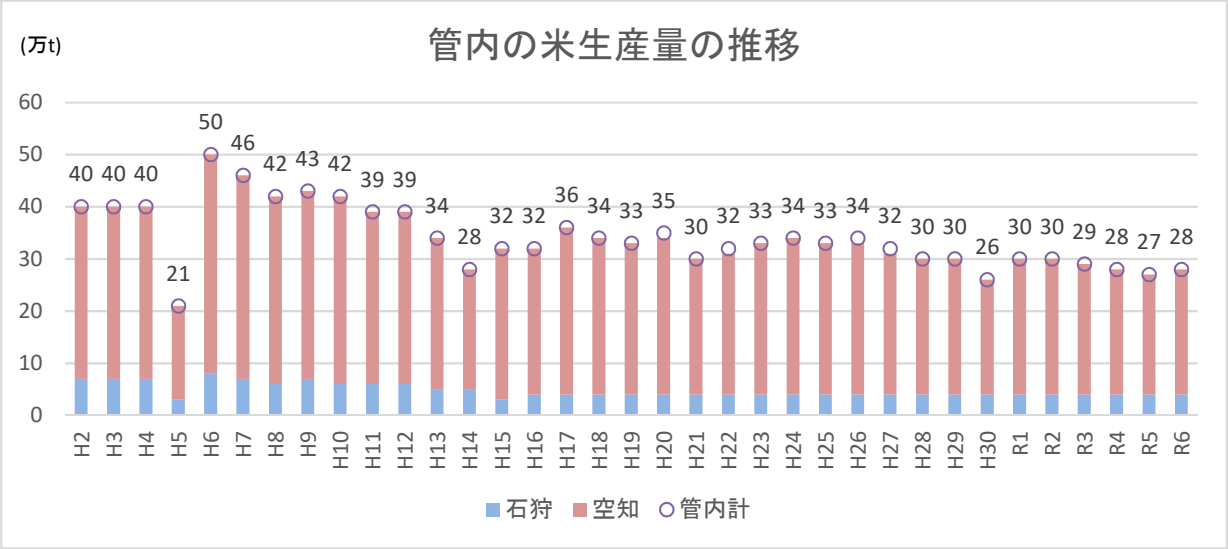
農業生産の状況

管内の米収穫量

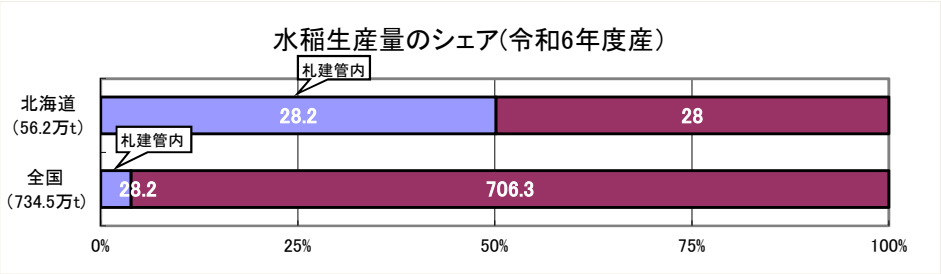
北海道は、わが国有数の米作地帯であり、なかでも管内の令和6(2024)年産の水稲収穫量は28.2万tと、全道の生産量の約50%を占め、全国シェアでは約4%になります。これは約553万人が1年間に消費する量で、北海道の総人口(504万人)が1年間に消費する米の量の1.10年分に相当します。

※米の消費量は農林水産省公表値(令和5年)から米の1人当たり供給量(51.1kg)とした。





資料:農林水産省「北海道農林水産統計年報」



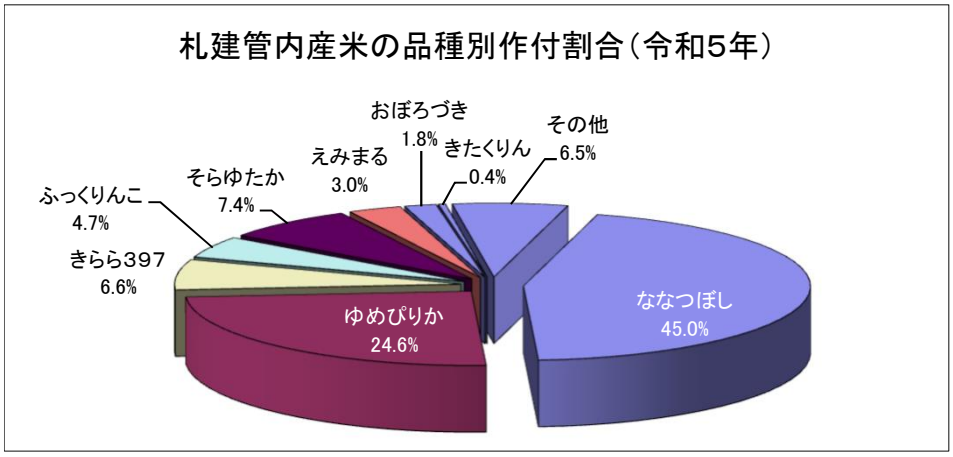
資料:農林水産省「令和6年度産 作物統計」
注:管内収穫量に、幌加内町収穫分を含む。

農業生産の状況

水稲の作付品種

管内で多く作付けされている「ななつぼし」「ゆめぴりか」は、(一財)日本穀物検定協会が実施する令和6(2024)年産米の食味ランキングで「特A」ランクと「コシヒカリ」など日本を代表する銘柄と並ぶランク評価となっています。

このほか、管内では病気に強く農薬低減につながる「きたくりん」、直播栽培が主流の「えみまる」(主食用)や「大地の星」(加工用)、飼料用米の「そらゆたか」など、様々な品種が栽培されています。

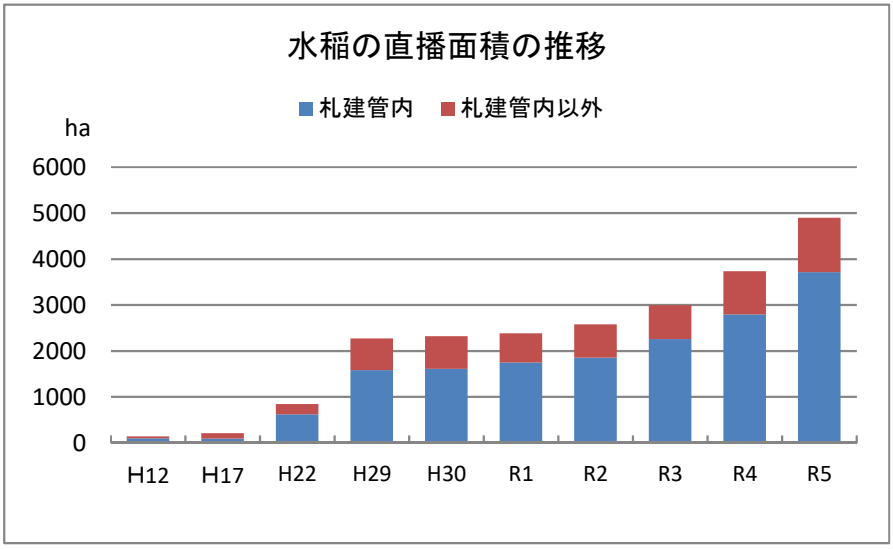


資料:北海道農政部調べ、幌加内町を除く
各品種の内訳の合計は、四捨五入の関係で100%にならない場合がある。

水稲栽培の省力化技術

育苗の労働力や経費の大幅な節減が可能な、稲の種もみを直接水田に播いて栽培する直播栽培(湛水直播、乾田直播)が急速に普及しはじめています。今後、戸当たり経営面積は急速に拡大していくと見込まれており、省力的な直播栽培は有望な営農技術として期待されています。

令和5(2023)年度は全道の直播栽培面積4,897haのうち、管内(幌加内町を除く)が3,709haで76%を占めています。



資料:北海道農政部調べ、H28以降幌加内町を除く